

誰もが主役として博物館の活動に参加できる
新しいスタイルの参加体験型の博物館



兵庫県立
考古博物館
Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology

兵庫県立考古博物館

10月13日(土) 大中遺跡に

いよいよオープン

一般入館は
午後1時から
です。

① 体感できる博物館

県立考古博物館では、考古学の基本である「遺跡」と「遺物」を現場体験と本物体験によって、利用者自身が見て・試して・感じて、兵庫県の歴史や考古学のおもしろさを実感できる工夫をしています。

発掘ひろばでは、「遺跡」を体験して考古学の楽しさを知ってください。今までの博物館にはなかった、小さな子どもたちでも楽しめる「コーナー」を用意しました。

テーマ展示室では、「遺物」を通して兵庫県の地域文化を発見してください。今回復元した古代船「ひほこ」や、亀山石製の石棺が皆さんの来館を待っています。

② 学べる博物館

また、3部屋を用意した体験学習室では、定番のまが玉作りや新開発メニューなど、考古博物館ならではの古代体験プログラムで楽しむことができます。

展示・体験学習で得られた経験と学習意欲をさらに深めるために、**各種講座・講演会をどんどん開催**します。「こんな話が聞きたい」「子ども向けにこんなことをして欲しい」など、何でもご相談ください。

③ 「現場」へと誘う博物館

国指定史跡「大中遺跡」と一体的に整備された当館には、展示室には展示できない**本物の遺跡**があります。自然豊かな公園に復元された竪穴住居を巡り、弥生時代のくらしを実感してください。

また、県内各地の博物館・資料館や遺跡公園などと共同で楽しい事業を順次実施します。この機会に各地を訪ねてみてください。きっと新しい発見があるのを待っています。

④ ご案内

大中遺跡公園内に開館する考古博物館は古代建築をイメージした展望塔が目印です。展望台からは播磨平野が一望できます。

子どもから大人まで誰もが楽しめる兵庫県立考古博物館へぜひ来館ください。

⑤ 開館イベント

開館記念展「発掘・日本の原風景」

▼10月13日(土)～11月25日(日)

全国各地の有名な遺跡から出土した重要文化財級の資料を一堂に展示します。日本の文化を形成した原風景を感じ取ってください。

開館記念講演会「考古博への序章―ひほこ、船団と大王の棺―」

▼10月21日(日) 午後1時30分

県立考古博物館の石野博信館長による講演会です。

古代体験の博覧会、「全国遺跡まつり」

▼11月3日(祝) (第17回 大中遺跡まつり協賛)

日本各地で行われている古代体験の博覧会です。

全国から「縄文人や弥生人」が考古博物館に大集合します。

播磨町の皆さんへ

10月13日(土)、待ちに待った 考古博物館がオープンします

館内に入るとそこは考古学の世界。数千年にわたり使われ続けた土器、獲物を追った旧石器人、森に生きた縄文人、土地を拓いた弥生人など、ひょうごの3万年の歴史を彩った主役たちが皆さんをお迎えます。古代人たちがつくったもの、さわったもの、食べたもの、何でも体験しましょう。彼らの知恵と工夫、生きる力を実感してください。



きっと、未来へのヒントが見えてくるはず。誰もが、いつでも、どこでも参加できる博物館を目指した兵庫県立考古博物館へ、ぜひお越しください。スタッフ一同、こちらよりお待ちしております。

館長 石野 博信

兵庫県立考古博物館

〒079(437)5589

- ▶所在地 播磨町大中500 (大中遺跡)
- ▶休館日 毎週月曜日、年末年始
- ▶観覧時間 午前9時30分～午後5時
(4～9月は午後6時まで)
- ▶観覧料 大人200円、大学生・高校生150円、
小・中学生100円

※県内在住・在学の小・中学生はココロカード持参で無料。障害者(介護者を含む)および兵庫県内在住の65歳以上は半額となります。

※11月25日(日)までは、開館記念特別展のため大人500円、大学生・高校生400円、小・中学生250円となります。



姉妹都市 ライマ市を訪問・ホームステイ交流

～ますます広がる交流の輪～

8月17日(金)から23日(木)の7日間、国際的な相互理解と人材育成などを目的に、中学生10人と国際交流協会員10人が、アメリカ合衆国オハイオ州ライマ市を訪問し交流を深めました。



ライマ市は、面積20km²、人口約40,000人の自然豊かな都市です。平成8年、相互の訪問をきっかけに交流を深め、平成11年3月に姉妹都市提携を結びました。

ホームステイ体験

滞在期間中、訪問団のメンバーは、16のホストファミリー(受け入れ家庭)に分かれて、ホームステイをしました。緊張する訪問団員を、ライマ姉妹都市協会のメンバーやホストファミリーは温かく出迎えてくださり、一緒にそれぞれの家庭へ向かいました。言葉の壁、文化の違いに戸惑いながらも、ホストファミリー宅では、家族の一員として普段の生活を体験し、また、家族とショッピングやアレクサンダーのお祭りへ出掛けたり、野球観戦や乗馬体験をするなど、それぞれの家庭で楽しく過ごしました。

ライマツアー コロンバスツアー



▲ソーラン節を披露

20日(月)は、全員でライマ市内の市庁舎などを訪問し、翌日には、オハイオ州の州都であるコロンバス市に行きました。コロンバス市ではオハイオ大学のアメリカンフットボールのスタジアムやオハイオ州の議事堂などを見学し、一緒に参加されたライマ市の方とも会話が弾みました。

歓迎会

19日(日)に催された歓迎会には、ホストファミリーの他多くの人が集まってくれました。訪問団のメンバーもすっかり打ち解けて楽しいひと時を過ごしました。訪問団は感謝の気持ちを込めて、何度も練習を重ねた歌とリコーダー演奏、ソーラン節の踊りを披露しました。

参加した中学生の感想は…

北村璃奈さん
おみそ汁を作り日本の味を紹介しました。折り紙も紹介しました。気に入ってもらえてうれしかったです。日本とは違ういろいろな物を見、違う言葉の人々と接することで、すごく勉強になりました。
新堀佳菜さん
言葉の壁に何度もぶつかって、そのたびに乗り越える。そのうちに、だんだん自分の思ったことをはっきり伝えられるようになっていった気がしました。自分が思っていることを相手に伝えようとする強い気持ちが一番大切なことなんだと思いました。

坂田愛さん

表現しがたいくらい楽しかったです。またライマ市に行つて、もっといろいろなことを学んで日本に伝えていけたらと思います。日本でも播磨町



▲ホストファミリーの皆さんと一緒に(福山大輝さん)

ライマ姉妹都市協会 訪問団来町

11月1日(木)から5日(月)の5日間の日程で、今回の訪問でもお世話になったライマ姉妹都市協会のメンバーが来町されます。歓迎交流会を開催しますので、ぜひご参加ください。

▼日時 11月2日(金)

午後6時30分～8時30分

▼場所 南部コミセン

▼費用 会員千円・中学生500円(個人会員の高中生は無料)、非会員千500円・中高生千円

▼申し込み

播磨町国際交流協会まで

079(435)0356

079(435)0356

第17回 大中遺跡まつり

「わくわくドキッ！ ようこそ考古博物館!!」

▶日時 11月3日(祝) 午前11時～午後6時

雨天時は11月4日(日)に順延

▶場所 大中遺跡公園



今月号では、まつりのイベントの詳細をご紹介します。昨年度に引き続き、『秋のまつり＝収穫祭』として、昼から夕方まで、イベント盛りだくさんで開催します。たくさんの方のご来場をお待ちしています。

古代生活体験コーナー

(受付午後1時～3時)

かんとうい 貫頭衣を着て、播磨大中古代の村(大中遺跡公園)を探検しましょう。まが玉作りや塩作り、イノシシ狩り、火おこし体験、住居探検など、好きな体験コーナーを選んでコースを回ります。選べるコースは、全部で5通りあります。弥生時代に暮らしていた人たちの生活の様子を体感してみてください。



模擬店・体験コーナー

(午前11時～午後6時)

各種、飲食物の模擬店をはじめ、輪投げ、ゴム鉄砲作り、土器焼き、わら細工、古代のアクセサリーのまが玉などの体験コーナーもあります。たくさん食べて、たくさん遊んでお楽しみください。



ステージ

(午前11時～午後6時)

火おこし競技や古宮の獅子舞、播磨太鼓に加え、今年は大中遺跡まつりのイメージソングを歌うフォークシンガー村井敏朗氏による「土の器」も披露されます。フィナーレまでお見逃しなく！



募集中!!

- ☆ 各種模擬店(食べ物大歓迎!)
- ☆ 運営ボランティア
- ☆ パレード参加者

引き続き募集します。詳細は、町内の公共施設にあるチラシをご覧いただくか、大中遺跡まつり実行委員会へお気軽にお問い合わせください。締め切りは10月12日(金)です。

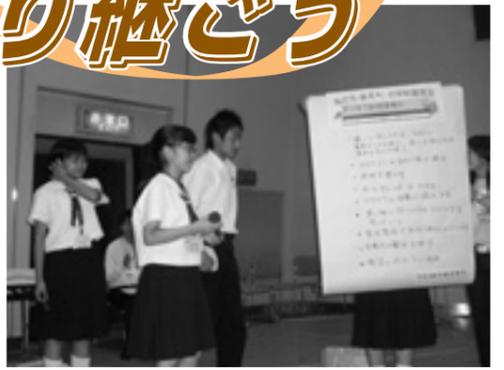
※写真は、昨年の大中遺跡まつりの様子です。

▶申し込み・問い合わせ

大中遺跡まつり実行委員会
(事務局 播磨町郷土資料館内)

☎079(435)5000

次世代へ平和の尊さを語り継ごう



▲播磨町の平和宣言文を発表

終戦から62年が経過しました。時が経つにつれ、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを体験した世代の人が少なくなっています。播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行い、今年も8月8日(水)～10日(金)に長崎へ「播磨町平和特使」を派遣し、8月19日(日)～20日(月)には「広島平和のバス」を実施しました。8月1日(水)には「平和祈念講話会」も開催し、家族や友達と平和の大切さを考える機会となりました。



▲原爆ドームの前で

家族で考えた 広島平和のバス

家族で広島へ行き、核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを学ぶ。この事業は、平成2年から実施しているもので、今年で18回目となります。

親子で核兵器の恐ろしさ、平和について真剣に考える良いきっかけになったのではないのでしょうか。

1日目は、宮島で昼食、厳島神社を見学した後、平和記念公園に移動、音声ガイドを聞きながら、平和記念資料館を見学しました。展示物について、親子で話し合う姿が印象的でした。

2日目は、原爆ドームを見学し、平和を願って住民の方と参加者が折った千羽鶴を原爆の子の像に捧げました。その後、資料館で原爆記録映画を鑑賞

「播磨町平和特使」として ピースフォーラムに参加

町立の両中学校からそれぞれ2人が、長崎で開催されたフォーラムに参加し、全国から集まった生徒たちと平和について話し合い、独自の平和宣言文を作成して発表しました。また、8月9日(木)には、平和祈念式典にも参列し、平和への思いを新たにしました。



▲平和祈念式典に参列

被爆した方の話を聞いた時、とても胸が苦しくなりました。体の痛みや、心の痛みがとても伝わってきました。次にみんなで戦争について話し合いをしました。いろいろな都道府県から来た人々と話をするというとても貴重な体験ができて、とてもうれしく思っています。



播磨中学校2年
佐藤 美紀さん

2日目、平和祈念式典に参加しました。いろいろな国の代表の方々も来ていて、とても驚きました。このような式典にもっと多くの国も参加したら、世界平和への道はもっと大きくなるんじゃないのかなと思います。

今回私が感じた思いを、多くの人々に伝えていこうと思っています。

私はこの2日間で、今まで自分があまりにも原爆について無関心だったことを知りました。戦争は、とても怖いものだと言われてきたけれど、本当の恐ろしさを知っているのは、戦争をしていた時代を生きていた人だけで、その人たちが私たちに直接、自身のことを話してくれることで、自分たちはどれだけ平和な今を生きているのかということを知れると思いました。



播磨中学校2年
富本 彩音さん

そして私たちが“戦争はいけない。核なんてもったいない”ということ、伝えていかなければいけないと思いました。

原子爆弾のせいで、たくさんの人々が命を奪われてしまいました。赤ちゃんや若い人たちまでも犠牲になりました。

この時代の人々は、大切な人をたくさん失ったと思います。僕は、友達や家族などの大切な人たちを失いたくはありません。戦争の時は、たくさんの方が食べ物で苦しみました。

日本は戦争をしなくなり、食べ物に困っている人も少なくなりました。



播磨南中学校3年
上田 直樹さん

戦争は国がボロボロになるまで続きます。核の所有をやめて、世界中が仲良くなってほしいと思います。戦争のない世界が1番の平和だ。

式典では、正林克記さんが読まれていた「平和への誓い」に心打たれました。私もつらくなってきて、涙を流しそうになりました。

ピースフォーラムでは、たくさんの方からの方が参加されていて、長崎県に住んでいらっしゃる方と「幸せだなと感じるとき」や「幸せでないと感じるとき」について話し合ったり、グループごとで平和宣言を発表しあったりしました。



播磨南中学校3年
香川 真璃子さん

たくさんの方々が核兵器廃絶に取り組んでいるのにこの世界にまだ核実験をしている国がたくさんあって。はやくどの国も核兵器を持たない平和な国になってほしいと願います。

戦争のない時代に

播磨小学校4年 磯山涼太さん

僕は、原爆ドームに行ったのは2回目だったけれど、改めて原爆の悲惨さ、戦争の残酷さが分かりました。原子爆弾で広島は何もかもを破壊して、広島の人たちは何が起きたか分からなかったらうなと思います。原爆を落としたアメリカを憎むんじゃないで、戦争をしないようにしていかなくちゃだめだと思いました。僕らが大人の時には戦争のない時代だったらいいなと思いました。

戦争の恐ろしさを伝えよう

連池小学校6年 轟木皓平さん

大林さんはまるで昨日起こったことのように詳しく話してくれてとても想像しやすいかった。今僕は好きなことができ、好きな食、好物を食べられる。いつでも友達と遊ぶことができる。戦争の体験者はだんだん少なくなってきた。戦争の恐ろしさを忘れてくる人がいるとも思う。だから、僕はみんなが戦争



▲平和を折って千羽鶴を捧げます

や核兵器の恐ろしさを忘れないように話していかなければならないと思う。

原爆の怖さを実感

播磨南中学校2年 井谷真美さん

私は戦争にはどんなことがあるのかを知っているつもりでした。でも、平和記念資料館や原爆ドームを見て、全然知らなかったことに気がきました。実際のものを見ると、原爆の怖さが分かりました。放射能による被害もいっぱいあると知りました。

資料館には外国の人もたくさんいました。その人たちが国に帰って戦争はいけない、核兵器は作っても使ってもいけないということを教えてほしいと思いました。戦争は絶対にしてはいけません。罪のない人を犠牲にする。そして、日本に原爆が落とされたことも忘れてはいけないと思いました。

平和祈念講話会

8月1日(水)、中央公民館で「平和祈念講話会」が開催されました。

今年も町内中学1年生と住民の方約400人が参加し、戦争体験を語り継ぐ活動をされている講師の田路信一さんの話を傾けました。

田路さんは1945年、15歳で2回の姫路大空襲を体験されました。その経験から、「平和の大切さ、命の尊さを忘れずに、父母・兄弟姉妹との絆、友達との助け合いの心を大切にしてください」と訴えられました。